



佐用町文化遺産再発見活性化事業への取組と地域の人々との協働

藤木, 透

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 13:5-7

(Issue Date)

2015-01-31

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81008744>

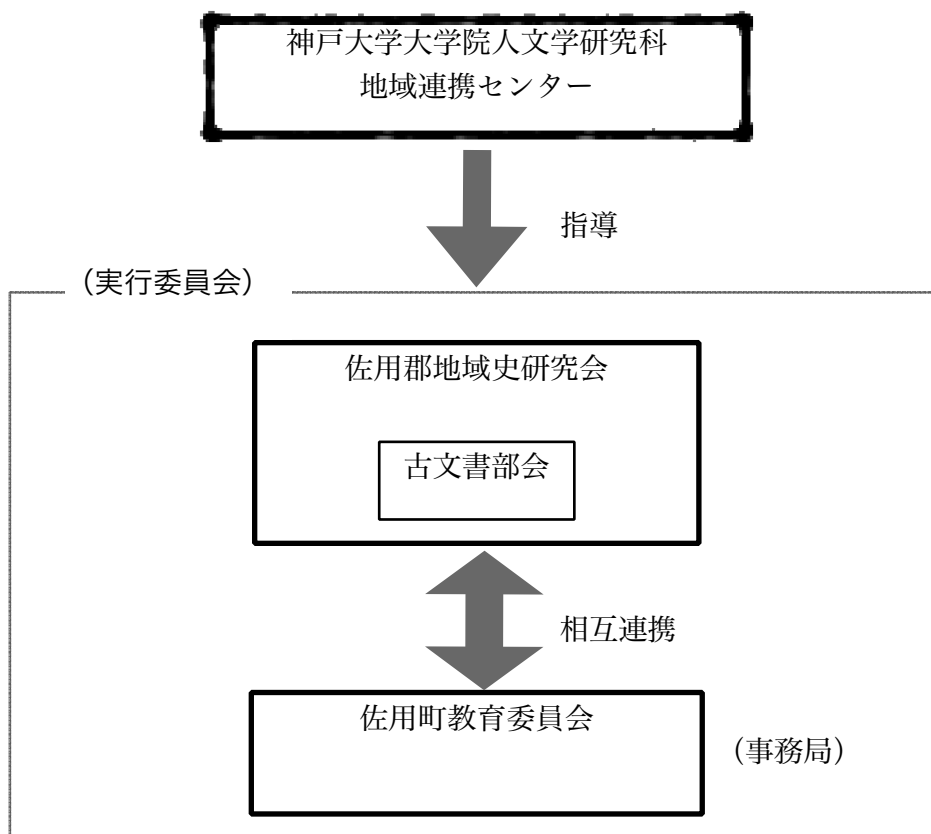


佐用町文化遺産再発見活性化事業への取組と 地域の人々との協働

藤木 透
(佐用町教育委員会文化財係)

事業概要

- ・文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」
(初年度「地域伝統文化総合活性化事業」(委託事業)としてスタート、現在は「文化遺産を活かした地域活性化事業」となっている。)
- ・平成22～24年度の3ヶ年
H22 458千円、H23 586千円、H24 752千円、計1,796千円
- ・実行委員会形式



背景

- ・過疎化
建物解体や代替わりで代々残されてきた古文書等が廃棄されていく

- 時代の変化により無用化、価値の非認識化
- ・自治体合併（平成 17 年 10 月 4 町合併）
公文書の大量廃棄の危機
 - ・2009 年水害
水損した資料の廃棄、被災家屋の建替
水損資料のレスキュー、廃棄資料の回収（襖、屏風、古書）

内容

地域遺産の保全

- ・資料所在調査
- ・未整理資料の調査整理

普及啓発

- ・講演会・発表会・展示会
- ・啓発冊子の作成

継承

- ・古文書の取扱・調査・目録の取方／実習
- ・襖下張り調査の仕方／実習

成果

- ・町内自治会宛に歴史資料の所在確認調査（アンケート）
但し、回答率は低く（82/142）、資料ありとの回答は 19 件、追加調査が必要
- ・古文書目録の作成
古文書保存箱への収納
- ・古文書解読初級講座（古文書部会対象）
- ・講演会「佐用の地名のいわれと歴史文化-風土記の神話から-」
「災害から地域の歴史資料を救う-2009 年・2011 年-」
- ・発表会「交流発表会」
「まちの文化遺産を考える 1・2」
- ・展示会「下張り文書の世界」
- ・歴史資料の取扱学習会・ワークショップ
「古文書目録の採り方」
「襖の解体・下張りはがし」
- ・啓発冊子の印刷『わたしたちの文化遺産-資料保存ガイド-』
但し、目指していた全戸配布は実現できず

事業後の取組

- ・佐用郡地域史研究会の独自事業として継続

- ⇒古文書部会を中心に実施
- ・事業で行った襖下張り文書の調査 月2回
- ・古文書解読入門講座の開催 全五回 受講生を募集（17名の参加）
 - ⇒古文書部会メンバーがスタッフとして補助
- ・古文書の会など新入会員の増加
 - ⇒古文書部会のメンバーによる活動の活発化

課題

- ・事業の受入体制
 - 限られた人員でできることの限界（事務局体制）
- ・継続性
 - 高齢化、固定化
- ・自立性
 - 事務局頼りになりがち
- ・協働の体制（行政と町民）
 - 本当の意味での協働となりえるか
 - 行政の縮小化により協働できる分野は限られる